

根羽村誌 目次 上巻

題字

口 絵

序 文
凡 例

前根羽村長 菅沼 真佐人
根羽村長 小木曾 亮式

第一編 自然

第一章 地形と地質

第一節 根羽村の位置・地形	三
一 根羽村の位置	一
二 根羽村の地形	三
第三節 根羽村の地質	五
一 領家片麻岩類	五
二 石英閃綠岩	七
三 變輝綠岩	七
四 伊奈川花崗閃綠岩質岩体	七

1 片状構造をもつた伊奈川岩体

第二章 氣象と氣候	一
第一節 概況（東海地区山間部の氣候）	一

第二章 氣象と氣候	一
第一節 概況（東海地区山間部の氣候）	一
2 閃綠岩質の伊奈川岩体	二
3 武節花崗岩質岩体	九
4 第三紀層	九
5 折山地域	一〇
6 池ノ平地域	一一
7 ムネバタ牧場	一二
8 離山地域	一三
9 面ノ木峠・萩太郎山・茶臼山	一四
10 まとめ	一五

第二節 気温

一 下伊那では特種な性質を持つ気温 六

二 暑さ、寒さの厳しくない温暖な気温 六

三 村内でも地域差の大きい気温分布 六

第三節 降水量

一 冬少ない降水量 七

二 多い暖半期の降水量 七

三 八月に多い降水 七

第四節 日照 (多い日照時間)

一 弱い風力 八

二 谷に沿って吹く風 八

第六節 積雪

一 雪を降らすしくみ 八

二 雪の少ない中心部 八

三 地区により差のある積雪 八

第七節 天気 (太平洋岸型の天気)

一 雪を降らすしくみ 八

二 雪の少ない中心部 八

第九節 生物気象

- 一 早い春の訪れ 九
二 杉の生育に適した気候 九
三 村内でも地域差の大きい気温分布 九

第十節 気象にかかわりのあることわざ

一 杉の生育に適した気候 九
二 杉の生育に適した気候 九
三 村内でも地域差の大きい気温分布 九

第三章 植物

第一節 気候と垂直植生帯

- 一 気候 六
二 垂直植生帯 四
1 低山帶 四
2 山地帶 四

第二節 植物の分布

一 南の系統、北の系統 八

二 植物区系 八

三 植物の分布型 八

四 植物がもつ歴史性 八

五 地史的要因と植物の分布 八

六 その他の分布要因 八

七 植物地理上注目される根羽村の植物 八

八 根羽村の植物の分布の道筋 八

第三節 帰化植物

一 史前帰化植物	八一
二 新帰化植物	八一

第四節 各地のフローラ

一 茶臼山	八三
二 小戸名ふるさとの森	八六
三 八柱神社	八〇

第二編 原始・古代・中世

第一章 原始・古代

二九

第一節 考古学よりみた根羽

二九

一 根羽の考古学的調査

二〇

二 根羽の考古学的概観

二一

(一) 先土器時代(旧石器時代)

二二

(二) 繩文時代

二三

(三) 弥生時代

二四

(四) 古墳時代

二五

(五) 歴史時代

二六

第二節 根羽の遺跡

二七

一小川川流域の遺跡

二七

1 市之瀬遺跡

二七

2 信玄塚遺跡

二七

3 信玄塚

二七

4 中野遺跡

二八

5 山吹遺跡

二九

二 小戸名川流域の遺跡

二九

1 茶臼山遺跡

二九

2 倉平遺跡

二九

3 小戸名遺跡

二九

4 莺野遺跡

二九

5 向黒地遺跡

二九

6 浅間遺跡

二九

第五節 根羽村高等植物目録

九五

一 シダ植物

九七

二 種子植物・裸子植物

一〇九

三 被子植物・双子葉植物・離弁花類

一二

四 合弁花類

一〇

五 单子葉植物

三三

四 浅間神社

五四

五 島の谷湿原

九四

三 檜原川流域の遺跡

一 南北朝の争乱

三七

四 合流点付近と下流域

二 宮方と武家方

三七

1 黒地遺跡

三 宮方の足助氏

三八

2 新井遺跡

一 浪合の戦い

三九

3 森沢遺跡

二 浪合戦死の宮

三九

4 田島遺跡

三 尹良親王伝

三九

5 十王前遺跡

三 関氏と下条氏

三九

6 万羽瀬遺跡

一 関 関 氏

三九

7 小柄遺跡

二 下条 氏

三九

8 稲 遺 跡

三 根羽・月瀬の支配者

三九

9 日向遺跡

四 武田信玄の終焉

三九

10 日影平遺跡

五 武田信玄の終焉

三九

第三節 まとめ

六 戦国時代の根羽

第二章 中世

七 古代の加茂郡賀禰郷

第一節 莊園の設置

八 武田氏の伊那経略

九 武田氏の南下

十 武節谷合戦

十一 美濃と再度三河への進攻

十二 根羽・月瀬の信濃国編入

十三 足助庄名倉郷

十四 足助松山城の落城

十五 武田信玄の終焉

十六 武田信濃國編入

十七 莊園の成立と発展

十八 武田信玄の終焉

第二節 南北朝・室町時代の根羽

十九 南北朝の対立

一 交通路の変遷	1 南からの塙道	三六
2 中世の交通路	二〇	三六
二 村の成立		
1 祐羽根	一六	三六
2 胎瀬	一七	三六
三 村内の城館跡		
1 根羽城ヶ峯(男城)	一九	三九
2 女城	二〇	三九
3 月瀬城	二一	三九
4 小柄砦	二二	三九
5 柚路峠狼煙台	二三	三九
6 根羽砦	二四	三九
7 武田軍の前進基地考	二五	三九
第四節 交通の発達と村の成立	三六	三九
第三編 近世		
第一章 支配制度と村の運営	三七	三九
第一節 支配者の変遷		
1 戰国末と江戸初頭	一	三九
2 戰後末期の支配者	二	三九
第二節 村の構成	三九	三九
1 江戸幕府の代官制度	一	三九
2 飯島代官所の設置	二	三九
第三章 支配地の変遷	三九	三九
第一節 支配者とその変遷		
1 信玄塚と宝篋印塔	四	三九
2 武田氏滅亡と織田氏侵入	五	三九
3 信玄の終焉地考	三	三九
4 長篠の合戦	一	三九
5 織田軍侵入	二	三九
6 根羽着陣と信長の死	三	三九
7 家康の前期伊那支配	一	三九
8 妻籠城の決戦	二	三九
9 伊那諸族の滅亡	三	三九
秀吉の伊那支配	四	三九
第四節 交通の発達と村の成立	三九	三九

第三編 近世

第一章 支配制度と村の運営

三七

第一節 支配者の変遷

三七

第二節 村の構成

三九

第二章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

一 戰国末と江戸初頭	一
2 戰後末期の支配者	二
近世初頭旧根羽村の支配者	三

一 村役人

三九

第一節 支配者とその変遷	一
第二節 交通の発達と村の成立	二

三九

第三章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第四章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第五章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第六章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第七章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第八章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第九章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第十章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第十一章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第十二章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第十三章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第十四章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第十五章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第十六章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第十七章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第十八章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第十九章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第二十章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第二十一章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第二十二章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第二十三章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第二十四章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第二十五章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第二十六章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第二十七章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第二十八章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第二十九章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第三十章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第三十一章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第三十二章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第三十三章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第三十四章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第三十五章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第三十六章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第三十七章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第三十八章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第三十九章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第四十章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第四十一章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第四十二章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第四十三章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第四十四章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第四十五章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第四十六章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第四十七章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節 交通の発達と村の成立

三九

第四十八章 支配地の変遷

三九

第一節 支配者とその変遷

三九

第二節

第二節 貢租と課役	四二	二 宗門改め	四六
一 貢 租	四三	一 戸数・人口の変化	四七
1 稅 制	四四	1 旧月瀬村	四八
2 年貢の割付と皆済	四五	2 旧根羽村	四九
3 年貢高の変遷と小物成	四六	二 家族構成と年齢別構成	五〇
4 拝見證文	四七	1 旧根羽村	五一
二 檢見法と定免法	四八	2 旧月瀬村の年齢別構成	五二
1 割付の方法	四九	第三節 婚姻圈	五三
2 檢見の実施	五〇	一 入村者と他出者数	五四
3 定免請證文	五一	二 入婚圈	五五
三 木曾伝馬の助郷	五二		
1 助郷制度	五三		
2 助郷の種類	五四		
3 根羽・月瀬村の助郷	四五		
第三章 戸口の変化と人口の構成	四五	第四章 山林の利用と山論	五六
第一節 宗 門	四五	一 百姓入会山	五六
一 宗門帳と宗門改め	四五	1 入会山の用途と分布	五七
二 百姓持山	五六	2 山手年貢と慣習	五八
1 分布と面積	五六		
2 個人別所有面積	五六		

三 百姓山伐出し 四六
1 村持百姓山の活用 四六

四六

第五章 村人の生活

第二節 山 論

第一節 村の概況

一 山論の発生	四〇
1 山論の発生と時期	四〇
2 元禄以降の増加	四〇
二 主な山論	四〇
1 赤坂の山論	四〇
2 檜原山の山論	四三
3 池ノ平の山論	四三
4 その他の山論	四六
第三節 山林資源の活用	四六
一 巣 鷹 山	四六
1 檜 原 山	四六
二 博 木	四六
1 伊那郡の博木	四六
2 根羽村の博木	四六
三 植林の奨励	四九
1 植林政策	四九
2 月瀬山の植林	四九
第一節 農民の階層	五六
一 農民の階層	五六
1 本百姓と小前百姓	五六
2 水呑百姓	五六
3 百 姓 株	五六
二 農民の生活	五六
1 欠 落	五六
2 貸金騒動	五六
3 鉄炮改め	五六
4 賴母子講	五六

第六章 江戸時代の交通

第一節 公用の道	四二
一 伝馬と先触れ	四三
1 伝馬と宿継ぎ	四三
2 先触れ	四三
3 伝馬継立の急増	四三
二 幕府天文方の通行	四四
1 伊能勘解由忠敬	四四
2 天文方の入信	四五
第三節 民衆の道	四六七
一 庶民の旅	四六七
1 江戸時代の旅	四六七
2 参詣の道	四六七
3 往來手形	四六九
4 旅日記	四七〇
5 道路と橋の維持	四七一
二 文人墨客の往来	四七二
1 白隱禪師	四七二
2 菅江真澄	四七三
3 糟谷磯丸	四七三

第七章 中馬

第一節 中馬稼ぎの発生と沿革	四五
----------------	----

一 江戸時代の交通と中馬	四五
1 中馬稼ぎの発生	四五
2 当初の中馬の形態	四五
二 中馬紛争と明和の裁許	四五六
1 中馬と商人の紛争	四五六
2 中馬御裁許書	四五六
3 明和の裁許	四五六

三 中馬制度の確立	四七
1 中馬の交通路	四七
2 中馬の荷物	四九
3 中馬稼村と中馬頭数	四九
4 中馬慣行の成立	四九

第二節 中馬と商品経済の発達	四八
----------------	----

一 中馬稼ぎの発展	四八
二 商品経済の発展	四八

第三節 他所との争い	四八
------------	----

一 三州馬との紛争	四八
二 三州馬稼ぎの隆盛	四八

二 中馬・三州馬の争い	四五	4 戸数・人口の減少	四九
一 中馬稼ぎの发展	四六九	5 村方の借用金	五〇
二 中馬頭数と馬方数の变化	四九〇	三 慶応・明治の凶荒	吾一
1 中馬頭数と馬方数の変化	四九〇	1 慶応の凶作	吾一
2 村内の取極め	四九一	2 明治の凶作	吾一
二 馬喰会の開催	四九二		
		第三節 備荒貯穀	五〇二
第八章 災害・飢饉と貯穀	四九三	一 貯穀制度	五〇三
第一節 江戸時代の灾害と凶作	四九四	1 制度の確立	五〇三
一 災害と農民の生活	四九四	2 村内の貯穀	五〇四
二 村内の災害	四九四	3 貯穀改めと郷藏	五〇四
第二節 天明と天保の飢饉	四九五	二 疫病対策	五〇五
一 天明の飢饉	四九五		
1 天候不順な天明期	四九五	第九章 幕末の混乱	五〇七
2 餓死を待つ農民	四九六	第一節 国学の発達と尊王論	五〇七
3 餓死者の増加	四九七	一 平田学の伝播	五〇七
二 天保の飢饉	四九七	二 伊那谷の国学	五〇七
1 天保七年の異常気象	四九八	第二節 不穏な世情	五〇八
2 田方大凶作	四九八	一 水戸浪士事件	五〇八
3 村人の困窮	四九九	2 水戸浪士の旗挙げ	五〇八
		2 伊那谷の通行	五〇九
		3 根羽通行の変更	五〇九

二 偽勅使事件	五〇	2 西部地区への入山	五九
1 官軍先鋒隊	五〇	1 入山戸数と分戸	五九
2 高松隊の伊那入り	五一	2 入山の契約	五九
三 偽官軍事件	五一	3 生活	五九
1 官軍赤報隊の結成	五一	1 暮らし	五九
2 繩導隊の入信	五一	2 木地屋の終焉	五九
四 各地の騒動	五一	3 木地屋の死亡者	五九
		4 奥州への集団移住	五九
第十章 木 地 屋	五三	第四節 根羽宿木地屋騒動	五六
第一節 木地屋の起源と制度	五三	一 根元社の勢力争い	五六
一 縁起伝承	五三	1 木地屋根元の組織	五六
二 木地屋の誇り	五四	2 氏子狩り攻勢	五六
1 御綸旨	五四	3 支配者の抗争	五六
2 宗門手形と宗旨印証	五四	4 君ヶ畠派の劣勢	五六
三 氏子狩り	五六	二 根羽宿騒動	五六
第二節 下伊那地方への入山	五七	1 騒動の概要	五六
一 木地屋の定住と移動	五七	2 騒動の経過	五六
二 西部地区の木地屋	五八	3 寺社奉行への提訴と裁決	五六
1 木地屋の移動	五八	4 根羽宿騒動の評価	五六

下卷 目次の概要

<p>第四編 近代</p> <p>第一章 村の沿革 一 第二節 地方行政機構の変遷 三 第二節 町村制の実施 五 第三節 戸籍と戸口 七 第二章 村政と財政 五 第一節 村政 五 第二節 地租の改正 五 第三節 村の財政 五 第三章 産業 五 第一節 農業 五 第二節 商業と工業 八 第三節 畜産業 八 第四章 交通と運輸 八 第一節 交通 八 第二節 運輸 八 第五章 通信と電気 八 第一節 通信 四 第二節 電気会社の設立 三 第六章 消防と警察 三 第一節 消防 三 </p>	<p>第二章 現代 五 第一章 産業と戸口 五 第一節 戸数と人口 五 第二節 農業 五 第三節 林業 五 第四節 養蚕 五 第五節 畜産 五 第六節 商工業 五 第七節 農村の金融 五 第八節 観光 五 第二章 交通と通信 五 第一節 交通 五 第二節 道路と橋 三 第二節 運輸 三 第三章 行政と社会 五 第一節 徴兵制度と戦役 五 第二節 銃後の援助 五 第八章 神社と寺院 五 第一節 七宮めぐり 五 第二節 神社 五 第三節 寺院と堂宇 五 第七章 兵事 五 第一節 戸数と人口の推移 五 第二節 行政機構 五 第三節 予算と財政 五 第四節 昭和の大恐慌 五 第五節 国策と移民 五 第六節 戦争と生活 五 第七節 終戦と民主化 五 第八節 災害と防災 五 第九節 民生福祉 五 第四章 公共団体 五 第一節 経済団体 五 第二節 文化団体 五 第三節 その他の団体 五 付録 近現代の人物略伝 五 第六編 教育 五 第一章 学制以前 五 第一節 寺子屋教育 五 第二章 学制以降 五 第一節 有道小校 五 </p>
---	--

第二節 根羽学校	三四八	第三章 人の一生	四三三
第三節 根羽尋常小学校	三五五	第一節 冠	四三三
第四節 三つの分教場	三五九	第二節 結婚	四三五
第五節 根羽尋常高等小学校	三六一	第三節 葬儀	四三九
第六節 国民学校	三七三	第四節 祭り	四四二
第三章 六・三・三・四制	三七七	第一章 年中行事	四四五
第二節 根羽小学校	三七七	第一節 年の暮れ	四五五
第二節 根羽中学校	三八〇	第二節 正月	四五六
第三節 高等学校分校	三八五	第三節 季節の行事	四五六
第四章 青年教育	三八七	第四章 信仰	四五六
第五章 社会教育	三九一	第一節 神仏	四五六
第六章 教育委員会	三九五	第二節 講	四五六
第七章 学校林	三九九	第三節 石神仏	四九〇
第一章 社会生活	四〇一	第六章 方言・口頭伝承	四九〇
第一節 村のくらしと制度	四〇一	第一節 方言	四九〇
第二節 共有財産	四〇八	第二節 口頭伝承	四九三
第三節 衣食住	四一三	第七章 芸能・娯楽	四九六
第四節 家のきまり	四一六	第一節 芸能	四九六
第五節 民俗知識	四二三	第二節 娯楽	五〇一
第二章 経済生活	四二九	第八章 文化財	五〇一
第一節 生産・生業	四三三	第一節 有形文化財	五〇一
第二節 交通・交易	四三九	第二節 無形文化財	五〇六
第三節 金融関係と講	四五〇	第三節 書画	五〇七
付録 根羽の地名	四五七	付録 根羽村一万年の歩み	五〇七
付録 根羽村一万年の歩み	五〇七		